

総合人間科学 生命科学

1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（ 0人）
助教（うち病院籍）	0人（ 0人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	1人

2 教員の異動状況

堀内健太郎（教授）（H7. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	1件

1. 出願番号：STLO-P-H15-46, 発明の名称：光感受性化合物

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	2件

(3) 学内共同研究

金山尚裕（産婦人科学）光線力学的治療（PDT）用薬剤（ZnCP-I）等についての研究
 平野達（光量子医学研究センター） ZnCP-I等の光線力学的性質に関する研究

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光線力学的治療（PDT）用薬剤（ZnCP-I）等についての研究

この課題での研究は本学の¹産婦人科学講座、²光量子医学研究センターとの共同研究にて行なっている。

本学産婦人科学教室、化学教室との共同でヒト胎児便中から単離したZnCP-Iあるいは、すでにヒトに対してPDT治療薬剤として使用されているフォトフリンの血清中濃度の、より効率の良い測定法を確立しつつある。その過程で、フォトフリンの、実際にPDT治療で認可されている濃度よりもはるかに低濃度下での新規療法を開発した。すでに浜松医科大学倫理委員会の承認を得たので、臨床治験を行っている。

（堀内健太郎，森島賀子¹，村上浩雄¹，金山尚裕¹，河野榮治²，平野達²）¹浜松医科大学産婦人科学講座，²浜松医科大学光量子医学研究センター，光化学治療寄附研究部門

2. ZnCP-I等の光線力学的性質に関する研究

この課題での研究は本学の²光量子医学研究センター、¹産婦人科学講座との共同研究にて行なっている。

今回、ZnCP-Iあるいは、フォトフリンの、実験動物、培養細胞に対する光線力学的効果について、多面的に検討を加え、成文化した報告書作成までには至っていないが、種々成果を得つつある。

（堀内健太郎，森島賀子¹，村上浩雄¹，金山尚裕¹，河野榮治²，平野達²）¹浜松医科大学産婦人科学講座，²浜松医科大学光量子医学研究センター，光化学治療寄附研究部門

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 我々がヒト胎児便から取り出したコプロポルフィリンI亜鉛（ZnCP-I）について、平成16年度から17年度にかけて、きわめて安全でなおかつ有効なPDT薬剤になりうることを明らかにした（①出願番号：特願2005-008341，発明の名称：光感受性化合物，②出願番号：特願2006-015530，発明の名称：光線力学的療法用キット，③出願番号：PCT/JP2006/300328，発明の名称：光感受性化合物）。更に平成18年度に、ZnCP-Iの新規大量合成法についての特許を申請した（出願番号：特願2006-155129，発明の名称：ポルフィリン（Y）の多価金属化合物の新規製造方法）。平成19年度は、出願審査請求1件（申請番号：STLO-P-H15-46，発明の名称：光感受性化合物）を行った。また、PDT剤フォトフリンの血中濃度を測定するという新技術で、本学産婦人科学教室（金山尚裕教授）が行っている臨床治験に参加。なお、この臨床治験は、平成20年度も継続して行われている。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 現在我々の行なっている研究の主要テーマの一つは、我々が1991年にヒトの材料から採った新規物質として発表したコプロポルフィリンI亜鉛について、継続して、種々性質を明らかにし、その応用を見出していく、という姿勢で行われているものである。したがって、きわめて独創的かつ継続的で応用性は高く、その成果は国際的にも十分に評価されるものである。